



- 患者さんの人権と権利、そして思いを尊重します
- 安全で安心な急性期医療、がん医療、予防医療を推進します
- 救急医療の充実に努めます
- 地域の医療・介護・保健機関とつながる医療を行います
- 職員の働きがいのある職場を目指します



小林史明前副大臣

小林史明前デジタル副大臣が7月19日来院されました。

小林史明前デジタル副大臣兼内閣府副大臣が、7月19日デジタル技術を活用した取り組みを現場視察のため、小松・能美・加賀の3市をご来訪されました。



▲プレゼンを受けられる
小林副大臣

小松市では小松市民病院の顔認証による再来受診受付システムやAI(人工知能)問診などのデジタル化の取り組み状況を関係者と視察されました。

「小松市民病院のデジタル活用」は「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、特に優れた取り組みやアイデアを総理大臣が表彰する「夏のDigi田甲子園」に小松市が石川県の推薦を受けて本選出場しました。残念ながら当院の取り組みは受賞できませんでした。



AI問診操作中▶

小松市民病院のデジタル化の取り組み

▶ 顔認証での外来受診受付

自治体病院としては全国で一番最初に導入しました。

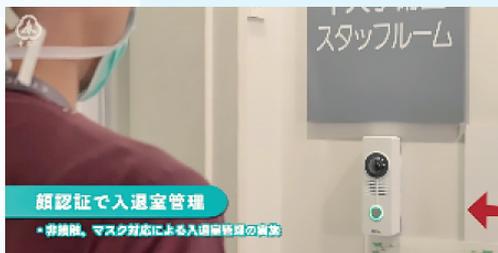
外来受診受付(タッチレス、マスク対応)から会計まで診察券が不要です。

*事前の登録が必要です。



▶ 顔認証での手術室入退室管理

セキュリティの向上と感染対策にも役立っています。



▶ AI問診

患者さんご自身でタブレットを使い、AIが生成した問診事項を入力していただきます。入力内容は電子カルテにすぐ反映されます。





▶ オンライン妊婦健診・診察 (胎児監視システムによるオンライン妊婦検診)

胎児の健康状態を遠隔からモニタリング。
妊娠中の通院外出や人混みでの不安を解消します。



▶ ビデオ通話によるリモート面会



▶ 24時間キャッシュレス決済

非接触による決済ができます。
現金やキャッシュカード支払い等に対応しています。

▶ 感染管理システム

電子カルテと連携しリアルタイムで検査結果を把握できます。
院内の感染(疑いを含む)状況を一覧で管理できます。



メディカルレポート

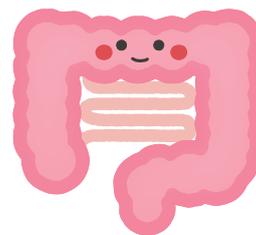
栄養科 株式会社ニチダン

《コンチネンスケア》に取り組んでいます

「コンチネンス」とは

コンチネンスとは、排泄が正常な状態であることを指す言葉です。

この排泄に関する問題を「予防」「対処」する取り組みです。小松市は「コンチネンスケア先進都市」としてこの活動を推進しています。



腸から綺麗に「腸活」のすすめ

「腸」は私たちの健康に大きく関係しています。

「腸活」とは、腸内環境を整えて腸が本来持つ力を取り戻すことです。

健やかな毎日を過ごすためにこの「腸活」は広く認識されるようになってきました。

なぜ「腸」にポイントをおくのか

腸には病原菌から体を守る免疫細胞の約70%が存在するだけでなく、免疫力を高める機能があることも分かっています。



第1弾

【腸活】の取組

食事を通じて摂取したいのは、**発酵食品**、**食物繊維**、**オリゴ糖**の3つです。
【ポイント】不足しがちな食物繊維に注目をおき、食事からサポートいたします。

毎日の朝食に「麦ごはん・麦粥」を提供しています

【大麦の特徴】

大麦には**不溶性**と**水溶性**の2種類の食物繊維がバランスよく含まれています。食べ続けると便もよくなり、健康効果が実感できます。



【不溶性繊維】

便のカサを増し、腸のぜん動運動を活発にしてくれます。

【水溶性繊維】

腸内細菌のエサとなることで腸内環境を整え、腸の働きを良くしてくれます。

食物繊維量は**白米の17倍**もあります。便秘改善など期待が出来ます。

第2弾

【プロバイオティクス】を取り入れます

プロバイオティクスとは、腸内環境を改善し、整腸作用や免疫調整作用などをもたらす、**生きた微生物**「善玉菌」を直接取り入れること。また、これらを含む食品、乳製品などによって摂取し、病気の予防に役立てることで。

【ポイント】ビフィズス菌とアシドフィルス菌のプロバイオティクスで腸内環境を整えます。

週一回の朝食に「乳酸菌飲料」を提供しています

【「乳酸菌飲料」の特徴】

提供させていただく乳酸菌飲料にはビフィズス菌BB-12とアシドフィルス菌LA-5のWプロバイオティクスが含まれています。



アシドフィルス菌LA-5をビフィズス菌BB-12と併せて摂取することが消化器系の健康に有益であると考えられます。

〈期待される効果〉

- ・規則的な便通
- ・何らかの治療の結果として生じることがある軟便の低減
- ・腸内細菌のバランスサポート

シリーズ 02 摂食嚥下障害

摂食嚥下障害看護認定看護師

畑 中美恵

生活の中には毎日おいしい食事が欠かせません。そんな楽しいはずの食事を快適に行えなくなってしまうのが「摂食嚥下障害」です。

〈摂食嚥下障害の主な症状〉

- ・唾液が上手く飲み込めずむせる、夜間も唾液でむせる
- ・食事にむせる(水分でむせることが多くなる)
- ・食事に時間がかかり、疲れて最後まで食べきれない
- ・痰が多く、のどが常にゴロゴロする
- ・体重の減少



〈摂食嚥下障害の主な原因〉

- ・脳血管疾患(脳梗塞・脳出血など)による後遺症
- ・神経疾患、筋疾患
- ・認知症、うつ病
- ・サルコペニア(筋肉量と筋力の低下による身体機能の低下)



摂食嚥下障害とは、上記のようなさまざまな要因により、食べるものを認識し、飲み込むまでの一連の流れに障害が生じることをいいます。摂食嚥下障害に対し、機能が回復、維持できるように原因をアセスメントし介入し、リハビリに取り組みよう関わっていくことが大切です。

当院では入院患者さんに対して、口腔外科医師、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、摂食嚥下障害看護認定看護師で多職種連携を図り、毎週水曜日に院内嚥下ラウンドを実施しています。ラウンドでは看護師としての視点から、患者さんの個別性などを評価し、嚥下機能が回復できるよう提案しています。





第15回 市民公開講座

明日を生きるがん治療

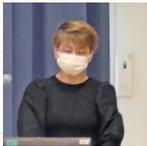
令和4年10月29日(土)13:00～15:00 第一地区コミュニティセンターで市民公開講座を開催いたしました。コロナ禍が続いておりますが、68名の方が参加して下さいました。

第1部 特別公演

【座長】 診療部長 塚山 正市

「暮らしの中にがんがある～暮らしを生きる人どうし～」

水泳インストラクター 花岡修子さん



大腸がんで治療中である花岡さんが、がんになる前となった後の変化や、仕事復帰の際の職場の反応、家族の気持ちを改めて聞いて気づいたことなど、少しでもどなたかの参考になればと講演してくださいました。

第2部 「小松市民病院のがん診療」

【座長】 診療部長 又野 豊

1. 肝がんの治療について

(1) 肝がんの内科的治療

消化器内科医長 伊藤 練磨



肝がんについてと肝臓がんの予防について、肝臓がんの内科的治療であるラジオ波焼却療法、肝動脈化学塞栓療法、抗がん剤治療についてや最近の治療についてのお話がありました。

(2) 肝がんの外科的医療

診療部長 塚山 正市



肝臓がんの手術の要点と肝切除術や術中ICG蛍光ナビゲーションを利用した手術を画像を交えながらのお話がありました。

2. 放射線治療について

診療放射線技師 太田 有紗



当院ではエックス線や電子線を使った治療を行うことができます。昨年度装置が更新され、より精度の高い放射線治療ができるようになりました。放射線治療についてと放射線治療が始まるまでのおおまかな流れについてのお話をしました。



中央手術室 周術期外来とは？

手術看護認定看護師 角浦 裕里

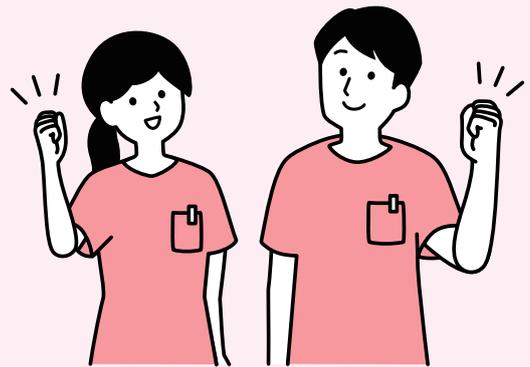
全身麻酔を受けられる、患者さんとそのご家族に対して、手術前の身体的準備、禁煙の支援、不安の相談などを行っています。(現在はがんの患者さんを対象としています)

入院前から、手術・麻酔・痛みなどの不安や疑問を少しでも解消し、安心して手術が受けられるような看護を目指しています。

手術が決まった外来の時点から、執刀医だけでなく、麻酔科医師、外来看護師、病棟看護師、手術室看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士などさまざまな専門の職種が連携しチームでサポートします。患者さん、ご家族もチームの一員となります。

当院では、経験豊富な手術室看護師が、個室にてご家族と一緒に面談を行っています。

患者さんが安心して、より安全に手術に臨むことができ一日も早く良い回復ができることが、チームスタッフみんなの願いです。



編・集・後・記

「腸活」には以前より興味があったのですが、病院食に麦ごはんが提供されていることを知り、自分でも1日1食麦ごはんを始めました。少しですがお腹の調子は良いように思います。継続は力なり！で麦ごはんを食べ、腸美人になりたいと思っています。(高原)



国民健康保険 小松市民病院



〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60番地
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>
E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp